

平成30年 自己点検・自己評価 目標及び課題、中間・最終評価と今後の課題

評価基準	
適切	4
ほぼ適切	3
やや適切	2
不適切	1

大項目	中項目	評価対象項目(質問項目)	平成30年度目標及び課題	中間評価(平成30年10月)	最終評価(平成31年2月)		
					評価点	平成30年度評価の概要と今後の課題 平均点	
1 教育理念・目的・目標	1) 学校の教育理念・目的・目標の設定	(1)教育理念・教育目的は法との整合性がある。	教育理念・教育目的、目標は明文化されており、学生便覧、シラバス、学校案内等に記載している。学生には、入学時だけでなく、実習前やHR等でその意図を説明していく。そして、教職員も共通認識し、学生生活のあらゆる場面において、意識した関わりを行う。また、講師会議や実習指導者会議においても提示し、理念に基づいた教育内容となるよう働きかけていく。今後は学生が教育理念、目的、目標に添った行動につながっているかの確認を定期的に行っていくことが必要である。各学年の目標も、教育目的、目標から下ろした内容になるように指導していく。	教育理念・教育目的・目標は、入学のオリエンテーション時をはじめ、新年度の年間計画提示の際にも意識づけをおこなっている。また、講師・実習指導者に対しても、講師会議や実習指導者会議において提示し、周知を図っている。学生に対しては、学年目標を設定する際、教育理念・目的・目標に沿ったものであるか意識するよう働きかけている。また、目標に対する評価を定期的に行い、学生の行動が目標に沿った行動がとれるように支援している。	4	教育理念には、当校がめざす看護専門職のあり方、看護教育の考え方について明示している。また、法令も遵守するよう努めている。 教育理念・教育目的・目標は、入学時、実習前、全体集合時、HR時において周知している。教職員には、転入時等に説明するとともに、カリキュラム評価、担当する授業計画立案時に、教育理念、目的、目標との関連性を確認しながら行っている。 また、年度当初には、学年毎に1年間のクラス目標と個別行動目標を立て、学生、教員ともに目標達成を目指している。中間評価を行い、終講の会で発表することで目標達成に向けた意思統一を図っている。最終評価は終業式に行っている。 今後も教育理念、目的、目標や社会の変化に基づいてカリキュラムの検討を行っていく。	
		(2)教育理念・目的を明文化している			4		
		(3)教育理念・目的は看護教育についての考え方を示している。(看護学・看護基礎教育の本質)養成所の教育上の特色を明示している			4		
		(4)看護専門職(専門性・自律性・倫理性・判断力・実践力)が明示されている			4		
		(5)教育観と学生観が明示されている			3		
		(6)教育理念・目的は人材育成の内容と一致している			4		
		(7)教育理念・目的・目標を学生にとって学習の指針になるように具体的に示している			4		
		(8)養成する看護師等が卒業時点において持つべき資質を明示している			4		
	2) 教育理念・目的・目標の達成	(9)教職員は教育理念・目的・目標について認識し、共有している			4		
		(10)教職員は、教育理念・目的・目標の達成に向けて努力している			4		
		(11)教育理念・目標は学生に浸透している			3		
		(12)卒業時点に於いて期待する姿になっているかを評価している			4		
	3) 教育理念・目的・目標の点検、見直し	(13)教育理念・目的・目標と教育課程の考え方が一貫している			4		
		(14)教育理念・目標は社会変化、ニーズに対応し年一回見直ししている			4		
2 教育課程	1) 教育課程の立案	(15)教育課程は看護学の内容・求める学修の到達及び学生の成長発達について明確な考え方と根拠を持って編成されている	教育課程の編成に関する考え方については明文化され、カリキュラム、授業、評価の一貫性は備えている。教育カリキュラムの点検・見直しは、講義担当者が検討後に教員会議に於いても検討し、講師、実習指導者、学生の意見も含めて引き続き検討していく。国家試験出題基準が改正された際には、学習内容に不足がないよう確認をおこなっていく。 科目設定は、母体病院である名古屋医療センターの特徴も踏まえて急性期を中心にしたBLSや災害医療に関する科目もあり、学校の特色あるカリキュラムとなっている。幅広い政策医療に基づいた学習内容を強化するため、今後も計画的に機構病院への施設見学等を組み入れて行く。 講義終了時には学生にアンケート用紙を配布し、無記名での授業評価を行う。その結果は、講師にフィードバックしたり、倫理的配慮を行いながら、講師会議等で公表していく。講師会議は入学生もいないため開催予定はあるが、実施されないことがないように運営する必要がある。	当校は、平成29年度の入学生が最後の入学生となるため、大きなカリキュラムの変更は行わないが、平成30年版国家試験出題基準が発表されたことに伴い、学習内容に不足がないかどうか確認を行った。 科目設定は、母体病院である名古屋医療センターの特徴も踏まえて急性期を中心にしたBLSや災害医療に関する科目が設定されており、計画的に実施した。 幅広い政策医療に基づいた学習内容として、てんかんやハンセンの施設見学等を実施し、学生は多くのことを学んでいた。 1学期の科目は終了毎に学生による科目評価を行っている。今後、講師・学生にフィードバックしていく。	4	教育課程は、教育理念、目的、目標から考えており、毎年見直しを行っている。設置主体の特徴から、国の担う医療について学ぶ科目や見学実習を計画し、よりよいカリキュラムを構築していく。 当校は、看護学科は今年度の入学生がいない。また助産学科は平成31年度の入学生が最後の学生となるため、大きなカリキュラムの変更は行わないが、平成30年版国家試験出題基準が発表されたことに伴い、学習内容に不足がないかどうか確認を行った。 科目設定は、引き続き母体病院である名古屋医療センターの特徴も踏まえて、今後も教育と連動させていく。シラバスには、科目毎のねらいや講義内容を明記していく。 講義終了時の学生による授業評価や卒業時のカリキュラム評価、講師会議での意見等をもとに今後もよりよいカリキュラムとなるよう取り組んでいく。	
		(16)教育理念・目的・目標にあった科目設定をしている			4		
		(17)教育課程・授業・評価に至り一貫性がある			4		
		(18)科目設定には学校の特色を盛り込んでいる			4		
		(19)科目設定には学習者・社会のニーズを考慮している			4		
		(20)科目の一般目標・行動目標は明確に設定している			4		
		(21)指定規則に合致した科目と単位・時間を設定している			4		
		2) 教育課程の効果的編成			(22)教育理念・目標にあった順序性で科目を配列している		4
					(23)科目の位置づけと科目間の関連性を明示している		4
					3) 教育課程の点検・見直し		(24)教育課程の評価・見直しは定期的(年1回)に行っている
		(25)教育課程の見直しは学生・講師・教員の意見を反映している					3
	(26)教育課程を評価する体系が整っている	4					
	(27)教育課程評価結果の活用において、倫理的配慮を行っている	4					

平成30年 自己点検・自己評価 目標及び課題、中間・最終評価と今後の課題

評価基準	
適切	4
ほぼ適切	3
やや適切	2
不適切	1

評価項目			平成30年度目標及び課題	中間評価(平成30年10月)	最終評価 (平成31年2月)		
大項目	中項目	評価対象項目(質問項目)			評価点	平成30年度評価の概要と今後の課題	平均点
3 教育活動・ 教育指導の あり方	1) 学習支援(ガイダンス)	(28)年度初めにカリキュラムガイダンスを行っている	年度の初めや学期始め、月次毎(時間割等の配布時)に、シラバスや学生便覧を用いてガイダンスを行う。学生便覧やシラバスの見直しは適宜行い、現状に即し、理解しやすい内容になるようにする。単位履修の方法等については、履修規程に含まれているので、助産学科入学時オリエンテーション時や始業式・終業式など必要時に説明を行い、単位履修を支援していく。科目により単位認定試験の方法が筆記・技術・レポート等と異なったり、配点は講師により異なる為、適宜ていねいに説明する。	入学時と2、3年生の4月に各学年で、当該学年の内容や変更点について実施している。シラバスは、学生に必要な内容・構成となっているか毎年見直しを行っている。シラバスの活用については、入学時とともに機会をとらえて繰り返し指導している。講義開始時にも科目の目標・内容について確認し、学生便覧やシラバスを活用し適宜説明している。登校は次年度閉校となるため、単位認定されなかった場合次年度に開講科目がないなど、学生にとっては不利益となる。そのため単位取得につなげられるように、学生指導を行っている。	4	学生便覧、シラバスは、毎年見直しを行っており、新入生には入学時に配布し、説明を行っている。在校生には、規程類や講義内容に変更があった場合には差し替え用紙を配布するなどして説明している。学生便覧の活用については、書いてあることが学生に周知されていないことがある等十分とは言えない。単位履修の方法等については、日々のかかわりの中で説明や指導を繰り返し行う必要がある。	3.6
		(29)学生便覧は内容・構成が工夫して作成され、学生が活用している			4		
		(30)シラバスが作成され活用について学生に説明している			4		
		(31)単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している			4		
		(32)単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている			3		
	2) 授業の計画的遂行・調整	(33)授業計画に基づいて授業は実施している	授業の計画的遂行や調整においても引き続き行う。科目を担当する講師の精選も吟味する。授業内容の精選は、学生の反応をふまえ、レディネスに沿っているか適宜確認する。また、その結果を授業者にフィードバックする。	授業は進度表に基づいて実施することが望ましいが、講師との調整が充分でない科目もある。今後、努力を要する状態である。授業内容に応じて授業形態を選択している。学生のレディネスを考え授業内容を精選している。講義依頼時に、シラバス・教科書・国家試験基準を参考に説明している。40人クラスの授業を拡大するために、講師への説明や依頼が十分とは言えない。看護の科目も一部80人クラスで実施しており、今後、改善に向けた努力を要する。	3	授業は進度表に基づき、学科担当の教員が調整し、ほぼ計画通りに実施している。教員は授業内容に応じて授業形態を選択しており、40人での授業も徹底されてきている。しかし、一部の院外講師や院内の講師については、授業内容について講義依頼時に説明をしているが、授業内容にそぐわないこともあるため、授業内容を把握し、講義内容の確認や講師の精選を吟味していく。今後も、教育効果を考え、40人での授業の実施に努めていく。	
		(34)時間割の進捗は、授業計画通りに行われている			3		
		(35)授業形態(講義・演習・実習)は、授業内容に応じて選択している			4		
		(36)授業内容は精選され、学生のレディネスにそって構成されている			4		
		(37)科目毎の授業内容を整理し、担当者へ周知している			4		
		(38)1クラスの学生数は40人以下の構成である			3		
	3) 授業科目の担当・時間	(39)科目を担当する講師は、その分野を教授するのにふさわしい人が担当している	教員の専門性については、全ての担当科目には当てはまらない場合もあるため、できるだけ専門性を重視して配当する。教員の週授業時間数を引き続き遵守していく。教員は専門性を深めるために研修や学会等への参加を積極的に行い、伝達講習により職場全体で新しい知識を取り入れられる職場風土の形成を行っていく。	指定規則に基づき、専門性を考慮した上で人選している。教員の専門性については、限られた人数であり、すべての科目が専門領域に沿った教員というわけではない。週あたりの授業時間数は、15時間以内であるが、演習支援等で15時間を超える週もある。教員には、研究助成金のシステムがあり、自己研鑽には役立っている。実習時間内に実習に関連する準備や調整は可能な限り実施できるようにはなっているが、準備時間がとれないこともある	3	科目を担当する講師は各講師の履歴に基づきふさわしい人を選出している。今年度は、成人健康障害時Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの看護過程の展開の部分で4Hずつ分けて授業を行ったが、教育内容の一貫性が保たれにくい状況であった。また、小児健康障害時看護Ⅰ、精神健康障害時看護Ⅰ・Ⅱは、講師の専門性から複数講師による授業となっていた。授業の質の保障のためにも、オムニバスではない方がよかった。自己研鑽のシステムについて教員研究費や研修日数の確保がされている。また東海北陸グループの教員研修においても授業研究に取り組んでいる。	
		(40)教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している			3		
		(41)教員一人当たりの週授業時間は15時間以内である			3		
		(42)教員の实習担当時間数は3時間に1時間程度の準備時間が見込まれている			4		
		(43)教員が自ら成長出来るよう、自己研鑽のシステムを整えている			4		
	4) 教育方法の工夫・研究	(44)学生が自主的に考え、学習することが可能な授業形態が導入されている(少人数教育・ゼミなど)	授業形態の工夫や、教材・教具を使用した授業展開を継続して実施していく。教員会議に於いて教員が行う技術演習の内容や方法を意見交換し、よりよい教授方法を検討する。東海北陸グループの教員研修での授業研究の取り組みが継続されており、3月に模擬授業という形で発表の予定があり、各グループ内での学びだけでなく、他のグループの発表からも学びを深め、教員の授業力の向上に向ける。	科目に応じて、少人数での教育、グループワーク等導入している。ほぼ適切な教材があり、効果的に使用できる。自己練習も確保されている。備品の管理や点検はされており、物品の老朽化などにあわせて、適時購入をおこなっている。東海北陸グループ教員研修においても授業研究をおこない、検討している。日常的ではないが、教員各自が問題意識をもって教材研究をしている	4	グループワークやチームティーチングの導入はされている。視聴覚教材も適切な量であり、必要時は効果的に使用されている。教育方法の検討は教員会議でも実施している。東海北陸グループ内で看護学科の教員研修会において、10のグループに分かれて授業研究を行った。その結果は、3月に発表会を行った。今後も継続し、授業研究を行っていく。助産学科においても、国立病院機構の助産学科教員で教員研修会を行い、助産教育の問題改善や質の向上を図っている。	
		(45)視聴覚教育機器・教材の質と量は十分で、効果的に活用されている			4		
		(46)効果的な教育方法について、検討の場をもっている(学内外)			4		
		(47)備品は台帳記載がされ、定期的な点検や購入計画がされている			4		
(48)教育において日常的に教材研究を行っている		4					

平成30年 自己点検・自己評価 目標及び課題、中間・最終評価と今後の課題

評価基準	
適切	4
ほぼ適切	3
やや適切	2
不適切	1

評価項目			平成30年度目標及び課題	中間評価(平成30年10月)	最終評価(平成31年2月)	
大項目	中項目	評価対象項目(質問項目)			評価点	平成30年度評価の概要と今後の課題
3 教育活動・ 教育指導の あり方	5) 臨地実習施設	(49)実習科目の目標・内容に見合った実習施設を確保している	今年度も実習施設が実習目的を果たすために適切であるか、常に検討しながら必要時には実習場所を開拓していく。 今年度の実習指導者会議の際、教育理念、教育目的、教育目標を引き続き説明する。 実習施設の実習指導者は指導案を立案して学生指導をするよう、働きかけていく。 実習指導者会議は、学生の科目評価の結果や意見を踏まえ、連携の強化により効果的な実習指導となるように会議の場で話し合いやグループワークを行うなど指導者会議のあり方を工夫していく。	ほぼ見合った実習施設を確保している	4	成人看護学急性期実習や母性看護学実習など、実習目標・内容に合った実習施設を再検討し、確保した。 実習指導者会議では、実習施設と意見交換して、最近の学生の傾向に対する関わり方の工夫や指導方法の検討を行った。臨地実習中は、指導者と教員が連携しながら、その都度役割分担し、学生指導にあたることができた。教員が複数の病棟を担当している影響で、指導者の負担が大きくなることもあった。今後も連携を密にししながら、よりよい指導をしていく必要がある。 実習指導者が実習指導案を立案・実施・評価しているケースは少ない。学生の指導を一貫性のある意図的なものにするために、今後も実習指導案の立案・実施・評価の意義を教員から伝えていくことが必要である。 助産学科は2年以上ほぼ同じ実習施設であり、教育理念や指導方法など確認・調整しながら実習させてもらっている。
		(50)実習施設は養成所の教育理念、教育目的、教育目標を理解している		会議の場で実習要項を示し説明することで理解している。	4	
		(51)実習施設は学生の看護実践を支援する体制を整えている		体制は整えている	4	
		(52)実習施設は実習目的を果たすために適切・妥当であるか定期的に見直している		見直している。実習目的に沿うよう施設と調整している。(ロイヤルベルクリニック)	4	
		(53)実習指導者は実習要項をもとに、実習指導案を立案・実施・評価している		指導計画を立案しているところとないところがある。	3	
		(54)実習指導者と教員は、役割分担を明確にして指導している		指導者と教員で相談しながら、実施している	4	
	6) 授業評価	(55)教員は授業終了時に、評価表による学生からの評価を実施している	授業評価については、引き続き学生からの評価を受け、評価結果に基づいて授業の改善に取り組んでいく。教員間で行う授業評価のシステムは確立されていないが、必要時は授業案を提示して検討し、授業改善に努める。	実施している	4	授業終了後の学生からの授業評価は評価表に基づき実施している。 昨年は教員間の授業評価を新任教員のみで実施したが、本年はそれも出来ていない。今後は、計画的に取り組んでいく必要がある。 実習や学内演習内容についての授業案は教員会議で提示して検討されているので、今後も継続していく。 評価結果は、学生からの意見で調整が必要な場合には、講師にフィードバックし、授業方法が改善されるよう努めている。
		(56)教員間での授業評価が行われている		教員間ではまだ行われておらず、課題である。	2	
		(57)教員自身による自己評価を実施している		各教員において実施している	3	
		(58)評価結果に基づいて、実際に授業を改善している		一部実施している	3	
		(59)評価結果活用システムが明確である		評価結果は活用しているが、システムについては明確にはしていない。	2	
	7) 単位互換	(60)大学・短大・専修学校への単位互換が可能な科目設定・時間設定である	単位互換については規程に基づき審議し問題なく認定しているため、今年度も継続していく。単位認定についての評価の公表や履修規程への明文化など、学生への説明も確実に行っていく。	単位互換可能な科目数・時間設定である	4	単位互換は規定に基づき審議し認定している。評価の方法はシラバスに明示しており、検討も行っている。 進級・進度の規定について学生便覧に示してある。 履修認定会議・進級判定会議は定期的開催しているため、今後も継続する。
		(61)大学(短大)卒の入学生に単位の認定制をとっている		認定制をとっている	4	
	8) 成績評価・単位認定	(62)評価の方法は試験・出席・学習状況・レポートにより行われている		行っている	4	
		(63)単位認定のための評価基準と方法を公表している		公表している	4	
(64)進級・進度の基準を示し適用している		適用している		4		
(65)履修認定会議・進級判定会議は定期的開催している		定期的開催している		4		

平成30年 自己点検・自己評価 目標及び課題、中間・最終評価と今後の課題

評価基準	
適切	4
ほぼ適切	3
やや適切	2
不適切	1

大項目	評価項目		平成30年度目標及び課題	中間評価(平成30年10月)	最終評価(平成31年2月)		
	中項目	評価対象項目(質問項目)			評価点	平成30年度評価の概要と今後の課題	平均点
4 組織・ 管理 運営	1) 学校の組織と関連組織の整備	(66)教員組織、事務組織は専任者が配置され、運営しやすい組織図ができています	教員組織、事務組織には専任者が配置されているため、各々の業務分掌を確認しながら、適正に役割を果たすとともに、連携を図っていく。副学校長は教職員の面接を行い、将来像を構想として示すようにする。運営に関する指導要領にある講師の資格に基づき、講師の選定を行う。講師からは履歴書を出してもらい、その専門性の確認を行う。実習指導者は、各実習施設により選出されているが、臨床経験等について確認をしていく。	教員及び事務職員は、業務分掌に基づき適正に役割を果たすとともに、連携を図っている。副学校長は適宜、教職員と面談を行い、将来構想等を示している。講師については、履歴書でその専門性の確認を行っている。	4	事務長、事務主任が病院との兼務であるが、学校運営に関する予算や管理において、常に連携している。また、専任の事務職員2名は非常勤であるが、業務調整を図りながら連携できている。専任教員は病気休暇があったが、教員全体で協力しながら業務を遂行した。専任教員は教員養成課程を修了しているか、大学での教育に関する単位を取得しており、要件は満たしている。また、教務助手3名も配置されており、連携をはかって実習指導などを行っている。設置主体である国立病院機構から示された将来構想は、会議において教員に周知している。非常勤講師の専門性は、履歴書で確認を行った。	3.9
		(67)教員組織は運営に必要な人数と職種が配置されている			3		
		(68)教員は、看護教員養成課程を修了している。			4		
		(69)教職員の選考、資格審査、任免、昇格等について明確になっている。			4		
		(70)事務組織は運営に必要な人数が配置されている			4		
		(71)各職員が命令系統に沿ってその役割を果たしている			4		
		(72)教員の人事について副学校長・教育主事は意見を具申している			4		
		(73)管理者は教員に将来像を構想として示している			4		
		(74)講師や実習指導者は明示した資格要件を元に選考している			4		
	2) 教員人事の適正配置	(75)教員は看護学の専門領域毎に配置できている	教員の専門領域を重視した配置を心がけている。職員1人1人が役割を意識し、業務内容の見直しができるようにする。職員の役割内容の見直しを昨年行っており、今後は明文化されたものを定着していけるようにする。学校が関係する会議には構成員として出席していく。会議への参加や運営もおこなっていく。また、職員への周知も徹底していく。	教員は、概ね専門領域ごとに配置しているが、一部専門領域外に配置している場合もある。教務助手4名は、臨床経験が豊富であり、教員と連携しながら実習指導を行っている。職員は役割に沿って各々職務を遂行できている。	3	教員は専門性を生かした配置を心がけるが、教員の人数に限りがあるため、できない場合もあるため、臨床での研修を行う等、専門性の確保に務める必要がある。明文化された業務内容に沿って業務を遂行しているが、一部定着していないものもあるため、定着していけるようにしていく。教員は、教育活動以外にも様々な業務を分担しており、教職員で協力し、学校運営を行っている。	
		(76)実習調整者は専任で配置されている			4		
		(77)教務助手は十分な臨床経験を有しているか			4		
	3) 職員の職務分掌	(78)職務分掌は作成している	成績、学籍の異動状況等は、適宜学籍管理システムに入力する。証明書の申請があった場合には確認の上、発行する。学籍簿は印刷し、耐火金庫に保管する。	定例の幹部会議、管理診療会議に加え、口腔ケア委員会、電子カルテ委員会、防災委員会等に参加し、必要時意見を述べている。学校の運営会議、教員会議、講師会議を計画的に開催し、その準備を行っている。学生の長期休業中は、内容を精選し、集中教員会議を開催している。	4	会議は定期的に行われており、構成員として出席できた。今後も計画的に実施し、積極的に参加していく。	
		(79)職務分掌に沿って学校職員は各々の役割を果たしている			4		
		(80)業務内容は効果的な職務遂行ができるよう適宜見直している			4		
	4) 会議への参加運営	(81)構成員として幹部会議に出席し、必要時意見を述べている	成績、学籍の異動状況等は、適宜学籍管理システムに入力する。証明書の申請があった場合には確認の上、発行する。学籍簿は印刷し、耐火金庫に保管する。	学校の予算は、病院の予算として計画・執行・評価がなされており、歳出歳入の報告は、管理診療会議や学校運営会議で報告されている。教員は節電や事務用品の節約など努力しているが、引き続き印刷物の用紙やインクなど身近なものの節約や教材の工夫をするなど、節約や備品を大切に扱う意識を高める必要がある。学生にも物を大切に扱うことなど引き続き指導していく。	4	成績、学籍の異動状況等は、適宜学籍管理システムに入力している。証明書の申請があった場合には確認の上、発行している。卒業生の学籍簿は印刷し、耐火金庫に保管する予定。	
		(82)構成員として管理会議に出席し、必要時意見を述べている			4		
		(83)学校運営会議は定期的に行われて機能している			4		
		(84)教員会議は月2回以上定期的に行われている			4		
		(85)講師会議は定期的に行われている			4		
	5) 学籍の管理	(86)学籍簿は学籍の記録、履修状況が正確に記載され、証明機能を備えている	学校の予算は、病院の予算として計画・執行・評価がなされており、歳出歳入の報告は、管理診療会議や学校運営会議で報告されている。教員は節電や事務用品の節約など努力しているが、引き続き印刷物の用紙やインクなど身近なものの節約や教材の工夫をするなど、節約や備品を大切に扱う意識を高める必要がある。学生にも物を大切に扱うことなど引き続き指導していく。	学校の予算は、病院の予算として計画・執行・評価がなされており、歳出歳入の報告は、管理診療会議や学校運営会議で報告されている。教員は節電や事務用品の節約など努力しているが、引き続き印刷物の用紙やインクなど身近なものの節約や教材の工夫をするなど、節約や備品を大切に扱う意識を高める必要がある。学生にも物を大切に扱うことなど引き続き指導していく。	4	成績、学籍の異動状況等は、適宜学籍管理システムに入力している。証明書の申請があった場合には確認の上、発行している。卒業生の学籍簿は印刷し、耐火金庫に保管する予定。	
		(87)学籍簿は保管が適切になされ、秘密が守られている			4		
	6) 事業計画	(88)学校の事業計画を立てている	学校の予算は、病院の予算として計画・執行・評価がなされており、歳出歳入の報告は、管理診療会議や学校運営会議で報告されている。教員は節電や事務用品の節約など努力しているが、引き続き印刷物の用紙やインクなど身近なものの節約や教材の工夫をするなど、節約や備品を大切に扱う意識を高める必要がある。学生にも物を大切に扱うことなど引き続き指導していく。	学校の予算は、病院の予算として計画・執行・評価がなされており、歳出歳入の報告は、管理診療会議や学校運営会議で報告されている。教員は節電や事務用品の節約など努力しているが、引き続き印刷物の用紙やインクなど身近なものの節約や教材の工夫をするなど、節約や備品を大切に扱う意識を高める必要がある。学生にも物を大切に扱うことなど引き続き指導していく。	4	学校の予算は、病院の予算として計画・執行・評価がなされており、歳出歳入の報告は、管理診療会議や学校運営会議で報告されている。教員は節電や事務用品の節約など努力しているが、引き続き印刷物の用紙やインクなど身近なものの節約や教材の工夫をするなど、節約や備品を大切に扱う意識を高める必要がある。学生にも物を大切に扱うことなど引き続き指導していく。	
		(89)事業計画は病院の全体計画の中に適切に位置づけられている			4		
(90)中・長期目標の予算計画が立てられている		4					
7) 予算の執行	(91)年間の予算計画・執行状況を把握し、必要時修正している	学校の予算は、病院の予算として計画・執行・評価がなされており、歳出歳入の報告は、管理診療会議や学校運営会議で報告されている。教員は節電や事務用品の節約など努力しているが、引き続き印刷物の用紙やインクなど身近なものの節約や教材の工夫をするなど、節約や備品を大切に扱う意識を高める必要がある。学生にも物を大切に扱うことなど引き続き指導していく。	学校の予算は、病院の予算として計画・執行・評価がなされており、歳出歳入の報告は、管理診療会議や学校運営会議で報告されている。教員は節電や事務用品の節約など努力しているが、引き続き印刷物の用紙やインクなど身近なものの節約や教材の工夫をするなど、節約や備品を大切に扱う意識を高める必要がある。学生にも物を大切に扱うことなど引き続き指導していく。	4	学校の予算は、病院の予算として計画・執行・評価がなされており、歳出歳入の報告は、管理診療会議や学校運営会議で報告されている。教員は節電や事務用品の節約など努力しているが、引き続き印刷物の用紙やインクなど身近なものの節約や教材の工夫をするなど、節約や備品を大切に扱う意識を高める必要がある。学生にも物を大切に扱うことなど引き続き指導していく。		
	(92)職員は歳入歳出の状況を把握している			4			
8) 経営意識	(93)職員全員が経営意識をもっている	学校の予算は、病院の予算として計画・執行・評価がなされており、歳出歳入の報告は、管理診療会議や学校運営会議で報告されている。教員は節電や事務用品の節約など努力しているが、引き続き印刷物の用紙やインクなど身近なものの節約や教材の工夫をするなど、節約や備品を大切に扱う意識を高める必要がある。学生にも物を大切に扱うことなど引き続き指導していく。	学校の予算は、病院の予算として計画・執行・評価がなされており、歳出歳入の報告は、管理診療会議や学校運営会議で報告されている。教員は節電や事務用品の節約など努力しているが、引き続き印刷物の用紙やインクなど身近なものの節約や教材の工夫をするなど、節約や備品を大切に扱う意識を高める必要がある。学生にも物を大切に扱うことなど引き続き指導していく。	4	学校の予算は、病院の予算として計画・執行・評価がなされており、歳出歳入の報告は、管理診療会議や学校運営会議で報告されている。教員は節電や事務用品の節約など努力しているが、引き続き印刷物の用紙やインクなど身近なものの節約や教材の工夫をするなど、節約や備品を大切に扱う意識を高める必要がある。学生にも物を大切に扱うことなど引き続き指導していく。		
	(94)在学生は定員の90%以上を充たしている			4			
	(95)職員は歳出削減に向けて努力している			3			

平成30年 自己点検・自己評価 目標及び課題、中間・最終評価と今後の課題

評価基準	
適切	4
ほぼ適切	3
やや適切	2
不適切	1

評価項目			平成30年度目標及び課題	中間評価(平成30年10月)	最終評価(平成31年2月)		
大項目	中項目	評価対象項目(質問項目)			評価点	平成30年度評価の概要と今後の課題	平均点
5 学生生活への支援	1) 健康管理	(96)定期的に健康診断を実施している	年2回(の定期健康診断を外部委託によって実施していく。実習先の要望(感染症の有無)によって結果を実習先に伝えるなど今後も継続していく。 検査結果について要観察や要受診が判定された学生に関しては校医のスクリーニングが入り再受診や治療を促していく。また、教員からの生活指導も行っていく。	健康管理規定に基づき、春4月に健康診断実施している。再検査が必要な学生に対し、適宜再受診を指導し、結果の把握に努めている。 看護学生として日頃から自身の健康管理に関心をもつよう折に触れて指導している。日頃から衛生的な手洗いができるよう学校内手洗い場所やトイレに抗菌用石鹸やアルコールジェル、手拭きペーパーを設置している。 臨地実習では学生は個々に手指消毒剤を携帯している。また、毎朝体温測定・記録し、自分の体調を把握してから実習に行くようにしている。受け持ち患者は可能な限り感染症でない方を選定している。1年次の実習前に4種感染症(麻疹・水痘・ムンプス・風疹)について業者の健康診断結果に基づき、ワクチン接種、接種後の抗体価測定結果を提出させている。結核患者の入院等があり、抗体価の検査の必要性を検討する必要がある。 健康記録として、健康診断結果および、再受診結果・再検査結果を保管している。健康診断結果については、健康管理医に報告し、指示通りに対処し、健康管理医に経過報告している。	4	年2回の定期健康診断を実施した(春の健診は外部委託し、秋は学内)。検査結果について学校医のスクリーニングを受け、再受診や治療が必要な場合は学生に伝達し再受診結果を確認した。生活指導が必要な場合は教員より実施した。 あいち小児医療センター、豊橋医療センターでの実習生に関しては施設より問い合わせがあり、4種感染症(麻疹・水痘・ムンプス・風疹)の抗体価結果に基づき、基準値を満たさない者はワクチンの追加接種を実施し、結果を実習施設へ報告した。 老年健康維持実習(2年生:西6)、統合実習(3年生:西5)では、受持ち患者に結核を発症したため、感染制御対策室へ報告し、接触者健診の指示を確認し学生個々へ伝達した。 1月中旬~2月にかけてインフルエンザの流行に伴い、学内感染者の人数をホワイトボード等に掲示し、マスク着用・手洗いの徹底等の注意喚起を行った。インフルエンザに罹患した場合は出席停止となるため、今後は受診結果等を提出させ、確認することとする。 衛生的な手洗いができるよう石鹸・アルコールジェルの設置等環境を整えた。臨地実習では、アルコールジェルの携行の徹底に努めた。 今後も継続して実施していく必要がある。	3.9
		(97)学生が日常生活の健康管理ができるように指導している					
		(98)臨地実習での感染防止の対策をとっている					
		(99)健康記録は的確に記載し、活用している					
	2) 学生相談室、進路相談室の設置と対応	(100)学生相談の窓口を設けていることを学生に周知している	学生相談室の窓口を1回/週で設置していく。	新入生オリエンテーションで臨床心理士から学生相談を行っていること・方法を直接説明している。 各学年で学科関係、実習関係、その他のこと全般など教員の役割について学生に知らせ各教員に相談するようにしている 個人情報には教員には伝わらないシステムにはなっている。 病院と学校の兼務であり、専属ではないが、基本的に週1回定時に来校している。	4	学生相談の窓口を設けていることを学生に周知している。相談内容によっては、各学年で学科関係、実習関係、その他全般と教員の役割を伝え、各教員で相談に対応した。カウンセラーは病院と学校の兼務であるが、基本的には週1回のカウンセリング体制を確保している。H26年度利用者9名、H27年度8名、H28年度7名、平成29年度5名、平成30年度1名と減少傾向にある。	
		(101)学生相談の内容によって窓口(担当)を決めている					
		(102)プライバシーが保持されるシステムができている					
		(103)学生相談の専任のカウンセラーをおいている					
	3) 課外活動・ボランティアの支援体制	(104)課外活動に対する、教職員の支援・指導を受けられる体制である	課外活動(学習支援・技術練習支援)やボランティア活動に関する支援(自治会募金・エコキャップ収集、ハンドベル演奏会、エイズ講演のボランティア等)学生へのサポートを適宜行っていく。	課外活動として学生の学習支援・技術練習支援を教員が行っている。 ボランティア活動について情報提供を行っている。献血の呼びかけについては、血液センターの担当者より説明を行ってもらった。	4	サークル活動、学習、技術練習など課外活動に対して教員は支援している。ボランティア活動の情報提供は随時行っている。愛知県血液センターより説明してもらう時間を設けたことにより、献血協力者数は増加した。	
		(105)ボランティア活動の支援体制ができている(情報提供、渉外、経費等)					
	4) 自治会への支援	(106)学生自治会室(含兼用)がある	学生自治会室という明記はないがゼミ室など学生が自由に使用できる部屋を確保していく。また、自治会の物品を保管する倉庫を引き続き確保はしていく。 NHO学生フォーラムを通して他校との交流を支援していく。	学生自治会室と明記していないが、自治会活動に必要な物品を保管する部屋(教材室8)はある。 自治会活動の中心が2年生であるため、2年の担任が主に支援している。自治会総会の状況については全教員が円滑に活動できるよう支援体制がある。 2年次にNHO学生フォーラムがあり、東海北陸グループの学校5校が集まり交流を図っている。	4	学生自治会室はないが、学生が自由に使用できる部屋や自治会の物品を保管する倉庫を確保した。学生自治会の活動については、中心となる学年担任が主に支援した。NHO学生フォーラムで東海北陸グループの学校と交流を図っており、今後も他校と交流する機会を支援していく。	
		(107)学生の自治活動が円滑にいくために助言・指導している					
(108)他校と交流の機会をもっている							

平成30年 自己点検・自己評価 目標及び課題、中間・最終評価と今後の課題

評価基準	
適切	4
ほぼ適切	3
やや適切	2
不適切	1

評価項目			平成30年度目標及び課題	中間評価(平成30年10月)	最終評価(平成31年2月)		
大項目	中項目	評価対象項目(質問項目)			評価点	平成30年度評価の概要と今後の課題	平均点
5 学生生活への支援	5) 福利厚生 (奨学金制度・学生宿舎・学生後援会等)	(109)奨学金制度について学生に周知している	奨学金制度についての周知は引き続き複数回にわたり実施していく。多角的に支援体制を整えていく。機構病院からの奨学金制度も活用していくなど学業継続に向けたサポートをしていく。災害時の臨時対応は適宜対応していく。	入学オリエンテーション時に奨学金について説明している。国立病院機構の奨学金については募集のあった時に全学年に知らせている。 授業料減免制度・奨学金・カウンセリングは前述のとおり行っている。既履修科目は、入学後申請してもらい、シラバス等内容の確認と検討を行った結果認定している。 傷害保険を全学生に加入してもらっている。同窓会から、卒業時に証書ホルダー、花束などが贈られている。学生には卒業間近に同窓会について説明を行う予定である。 進路に対する相談は主に副学校長・教育主事・3年担任で面接している。インターンシップなどの情報提供を行ったり、国立病院機構の病院見学の希望があれば副学校長から該当施設の看護部長に連絡し支援している。 入学オリエンテーション時に授業料免除の特例について説明している。 学生宿舎は有していない 同上	4	奨学金制度については、入学時以後も随時募集に合わせて学生に周知している。また、返還についての説明も行っている。その際に、奨学金は借金であることを再認識してもらい、適切に管理するように周知している。 授業料減免制度・奨学金・カウンセリングの紹介既履修科目の入学時の認定、傷害保険の紹介、同窓会との連携、卒業、就職等の進路に関する教員・教育主事・副学校長による面接指導など、学生の状況をふまえて支援している。 学生宿舎は有していない。	4.0
		(110)学生が学業を継続できる支援体制を多角的に整えている			4		
		・授業料減免制度・奨学金・カウンセリング・既履修科目の認定			4		
		・傷害保険・同窓会との連携			4		
		・卒業、就職等の進路に関する相談、支援			4		
		(111)学則の中で授業料減免制度について学生に説明している			4		
		(112)学生宿舎を有し、管理責任者を置いている					
		(113)学生宿舎の運営は、学生が自主的に行っている					
6 施設整備	1) 校舎の整備と管理	(114)学生数に応じた施設基準を満たす設備がある(教室、看護学別の実習室、図書室、情報処理室、保健室、学生相談室、男女更衣室等)	教室等は鍵で管理しているが、学生は自由に使用できる。長期休業中も節電等に気を付けながら、施設を開放する。学生ホールは憩いの場とできるように整備されており、各階のホールが学習や話し合いの場として活用する。 今年度は、学芸大学の学生と施設を共同利用するため、学校間で調整を図るとともに、学生から意見を聞きながら、よりよい学習環境を整えていく必要がある。	校舎の設備は概ね整っている。学生ホールが憩いの場となっている。施設は学芸大学と学校間で調整を図りながら共同利用している。校舎の施設利用は、表を作成し、学芸大学との重なりがないようにしている。図書室は18:45まで使用できているため、講義終了後も学生の学習支援に繋がっている。今後も学生からの意見も取り入れながら、よりよい学習環境を整えていく必要がある。	4	教室利用について、表を作成し学芸大学へ使用の申請を行うことで対応した。 教室等は鍵で管理しているが、学生は自由に使用できる。長期休業中も節電等に気を付けながら、施設を開放していた。学生ホールは憩いの場とできるように整備されており、各階のホールが学習や話し合いの場として活用されていた。 来年度は、学芸大学の学生が2学年となり、ホールの使用についても大学との調整が必要になると思われる。施設を共同利用するため、学校間で調整を図るとともに、学生から意見を聞きながら、よりよい学習環境を整えていく必要がある。	4.0
		(115)グループ討議等ができる演習室を有している			4		
		(116)教室は視聴覚教材が使えるように整備されている			4		
		(117)校内施設利用規定は作成している(含む体育館)			4		
		(118)校内の施設利用は、学生の効果的な学習ができるよう配慮している			4		
		(119)学生ホールは整備され、憩いの場作りができています			4		
		(120)災害時を想定した設備点検・マニュアル作成がされている			4		
		2) 図書室の整備と管理			(121)図書および資料は分野毎、領域毎に分類され整理されている		
	(122)蔵書数は学生数に見合った十分な冊数である		4				
	(123)専門分野は専門領域毎に計画的に増補している		4				
	(124)学術雑誌は指定基準以上の種類を有している		4				
	(125)視聴覚機器が整備されている		4				
	(126)図書と学術雑誌およびビデオ等の整備点検はできている		4				
	(127)司書を配置している	4					
(128)学生が利用しやすい時間帯に開館している	4						
(129)新刊図書の紹介をしている	4						
(130)必要な図書増備の予算計画ができています	4						
(131)文献検索のためのインターネットの設備がある	4						

平成30年 自己点検・自己評価 目標及び課題、中間・最終評価と今後の課題

評価基準	
適切	4
ほぼ適切	3
やや適切	2
不適切	1

評価項目			平成30年度目標及び課題	中間評価(平成30年10月)	最終評価(平成31年2月)		
大項目	中項目	評価対象項目(質問項目)			評価点	平成30年度評価の概要と今後の課題	平均点
6 施設 整備	3) 教材の整備と管理	(132)教材教具は定期的に点検を行っている	教材の修理や補充は適宜行っていく。消耗品など計画的な購入ができるようにしていく。視聴覚教材も学生の学習に使えるように計画的に増やしていく。	破損している物品については適宜修理を依頼している。また、衛生材料については、手袋・エプロンなど使用頻度の高いものは定数管理が開始され、無駄な発注はない。また、余剰分を把握して使用しており、無駄な在庫はない。	4	教材の修理は適宜行っている。教材は全て学芸大学管理となっているが、授業に支障のないように適宜調整を行っている。衛生材料については、手袋・エプロンなど使用頻度の高いものは定数管理をしている。授業で使用するDVDについては新しいものは回覧されて各領域担当が検討している。	
		(133)専門領域毎に教育内容にあった教材を計画的に増備している			4		
		(134)器械器具、標本、模型は学生数に見合って十分な数を整備している			4		
		(135)ビデオ等、視聴覚教材は自己学習に使用できる			4		
		(136)教材購入の経費は年次毎に計画し増備している			4		
7 学生 の 受 け 入 れ	1) 学生募集の方法	(137)学校の教育理念・目標を反映した学生募集方針を定めている	平成31年度をもって閉校するため、看護学科においては、今年度の入学試験は実施しない。助産学科は、H31年度生の推薦入学試験、一般入学試験を実施していく。	助産学科において、学生募集方針を5月の運営会議で定め、学校ホームページや募集要項にも提示し、入学定員を満たすことができている。一般入試選抜の入試科目においても、必要かつ入試が受けやすいよう科目内容の検討や変更をおこなっている。	4	H31年度入学の助産学科の応募状況は前年度より13名増加し定員の2.84倍と3倍近くあった。応募者は大学卒業と既卒の社会人がそれぞれ約半数の割合であった。入学率は合格者の90%であった。推薦入試の入学生は定員の45%と高くなった。	
		(138)入学定員を明示している			4		
		(139)推薦・社会人・一般入試制度の有無は明記している			4		
		(140)学生の状況を察知した多様な選抜方法を検討している			4		
	2) 入学者選抜方法	(141)合格基準は明確にしている			入試規定にて合格基準を明らかにし、合格基準に沿った選定方法を実施している		4
		(142)転入学の方法・基準を明文化している					4
	3) 学生定員の質的充足状況	(143)入学試験の応募状況は定員の3倍以上である			助産学科は、応募状況は定員の2.5倍と今年度は低かった。入学率は合格者100%になっている。推薦入試の入学生は定員の35%とやや高くなった。		3
		(144)合格者からの入学率は50%以上である					4
		(145)推薦入試の入学生は定員の30%以内である					2
	4) 学生募集に関する分析・評価体制	(146)入学試験委員会が定期的に行われている			入試委員会の開催は定期的に行われ、毎回入学生の推移と評価を行っている		4
		(147)志願者・合格者・入学者などの推移とその評価がなされている					4

3.7

平成30年 自己点検・自己評価 目標及び課題、中間・最終評価と今後の課題

評価基準	
適切	4
ほぼ適切	3
やや適切	2
不適切	1

評価項目			平成30年度目標及び課題	中間評価(平成30年10月)	最終評価 (平成31年2月)			
大項目	中項目	評価対象項目(質問項目)			評価点	平成30年度評価の概要と今後の課題	平均点	
8 卒業生の 状況	1) 卒業生の進路	(148)卒業生の90%以上は看護職を選んでいる	進路決定へのサポート体制や担任、教育主事、副学校長との面接も引き続き定期的に行っていく。 厚労省から出されている「看護技術の経験マトリックス」で経験度は把握しているが、卒業時の看護実践能力の評価については課題である。	今年度、助産師学校への進学もいるが、その他の学生は病院への就職がほぼ決定している。 副学校長、教育主事、3年生担任が就職にあたっての進路相談や面接などを行っている。	3	今年度の看護学科卒業生の進路は、助産師学校への進学が6名、その他の59名は看護職として就職する予定である。また、助産学科卒業生は16名すべて助産師として就職する予定である。副学校長、教育主事、3年生担任が就職にあたっての進路相談や面接などを行った。 進路相談・指導体制については、卒業時に学生にアンケートを行っており、5点満点中3.5点であった。 就職先での評価は、施設と情報交換しており、インシデントの内容を卒業前技術演習等で活用したり、社会人としての心構えについてグループワークを実施した。 技術経験については、実習指導者会議で、学生が経験している技術についてのデータを出し、意識できるように働きかけはできている。しかし、経験が少ない技術項目もあり、各実習で意識的に実施できるよう、学生や実習指導者に実習中も引き続き伝えていく必要がある。 看護実践能力については評価できていないのが現状である。具体的にどのように評価していくか検討が必要である。学生の自己評価からも評価していきたい。	3.5	
		(149)卒業時点での進路状況が、分類整理されている			4			
(150)統計資料が経年的に整理され、活用されている		4						
(151)卒業生の就職先との情報交換や調査の実施等が出来る体制を整えている		3						
(152)卒業、就業にあたっての進路相談・指導体制が整っている。		4						
(153)卒業状況は入学時状況と比較している(学生数の変動等)		4						
(154)卒業時の学生の看護実践能力を把握している。		3						
(155)期待する卒業生像と、就職先での評価は妥当である。		2						
2) 資格取得(国家試験)合格状況	(156)国家試験合格状況は、全国の平均合格率を上回っている	昨年度も看護学科は100%合格であった。学力だけでなく学習出来る環境かどうか、サポート体制はあるのかがどうか等、学生の背景についても把握していくことが時には必要である。また、学校で学習できるよう学習環境を整え関わっていくことも必要である。 助産学科は合格率100%を維持していく。	実習後に領域別の問題を解くなどして、実習を国家試験に結びつけるような学習に取り組んでいる。模擬試験や小テスト、特別講義などを行い、国家試験対策を行っている。また、昨年度からチューター制度を用い、各学生に個別に指導ができる体制を調整している。	4	国家試験の出題傾向が今年度から変更となり、5者択2の問題が増えたり、読解力やアセスメント力を求める問題が増えている。学生指導については、国家試験問題集の購入、業者模試だけでなくwebを利用した問題を教員が作成し実施している。スマートフォンを活用しての学習方法など現在の学生の状況にあわせた学習方法の提示も行った。出題傾向と学生の状況をふまえて国家試験に対する特別講義も検討し、講師の選定を行い実施した。卒業生や、国家試験合格ラインに届かない学生へも個別に対応し効果的な学習ができるようにした。 次年度もチューター性の継続、Web問題の活用等学生の特徴にあわせて対応していく必要がある。	4		
	(157)不合格者の背景、特性を分類し、教育活動に活かしている			4				
9 社会への 貢献	1) 地域との連携と社会への啓蒙	(158)看護教育および看護の情報を公開し、広報活動を行っている	今年度も引き続き広報活動を行っていく必要がある。今年度は地域への働きかけとして、母体病院である名古屋医療センターと合同で金シャチフェスタを開催する予定である。病院と学校の情報公開の場とし広報活動に努めていく。 名古屋医療センターが災害拠点病院やエイズ拠点病院であることから、ボランティアに参加する機会があり、学生にボランティアの意義を説明し、自主参加を促していく必要がある。 国際的視野を広げるために、授業に取り入れていく。	金シャチフェスタに向けて、名古屋医療センターと合同で、地域への広報活動を進めている。また、業者主催の学校紹介にも教員が赴き、広報活動をしている。	4	病院合同での金シャチフェスタでは、来校された方々とふれ合う機会を持つことができた。近隣の商店街に出店を依頼したり、名古屋学芸大学からも出店を依頼し、協力して行うことができた。	3.9	
		(159)学校行事は地域性を考慮して教育計画に位置づけている			4			
		(160)地域への働きかけは社会のニーズに応じた内容である			4			
	2) 近隣関連施設との連携	(161)近隣施設へのボランティア活動に積極的に参加している		ボランティア活動は、母体病院や講師からの依頼もあり、学生へ積極的に働きかけている。母体病院の看護師が、学校の図書室を使用するなど、学校を開放している。	4			ボランティア活動は、母体病院や講師からの依頼があり、学生も積極的に参加することができた。 金シャチフェスタで公開講座を開催した。 国立病院機構の施設と連携をとり、講師として授業をしていただいたり、演習で指導をいただいている。学内での学習状況を伝える事が出来ている。
		(162)社会人および近隣施設の生涯教育の場として学校を開放している			4			
		(163)近隣関連施設との情報交換および連携システムができています			4			

平成30年 自己点検・自己評価 目標及び課題、中間・最終評価と今後の課題

評価基準	
適切	4
ほぼ適切	3
やや適切	2
不適切	1

評価項目			平成30年度目標及び課題	中間評価(平成30年10月)	最終評価(平成31年2月)		
大項目	中項目	評価対象項目(質問項目)			評価点	平成30年度評価の概要と今後の課題	平均点
	3) 国際的視野	(164)国際的視野を広げるための授業科目を設定している		災害看護の授業で国際看護について講義を行っている。また、臨床英会話や英語論文購読の授業で、医療現場で必要とされる英語表現や専門用語を身に付けている。	4	学生の中には、海外での看護活動を行いたいという希望を持っているものもいる。図書室に英語の雑誌等を定期購入し、国際的な活動に関心が向けられるように努めた。引き続き、英語の強化を行っていく。	
		(165)国際的視野を広げるための学習ができる環境を整えている			4		
		(166)留学や海外において看護職に就くことを等を希望する学生に対応できる体制を整えている			3		
10 研究・ 研修活動	1) 研究・研修活動の財政面の整備	(167)研究費は研究計画を立案し、助成金の申請をしている	研究助成金の計画的な使用を引き続き実施していく。教員の研究活動を支える助成金の用途であるように心がけていく。研究につながるようにしていく。	各教員が研究や研修への年間計画を立て、予算計画も立てている。	4	各教員が研究計画および年間予算計画を立て計画的に研究助成金を使用している。研究に必要な機器は計画的ではないが必要時整備している。	
		(168)研究にに必要な設備・機器を計画的に整備している			4		
		(169)研究・研修への年間予算計画が設定されている			4		
	2) 教員の研究活動	(170)教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)している。	教員の研究活動を支えるように「教育活動・研究活動のための時間保証」が学校内取り決め事項として明文化されているので活用していく。 教員は各々専門領域の研究活動や発表に取り組んでいて、継続した活動がされているが、教員の半数以上には至っていないため、経験のない教員も研究活動に取り組めるように体制を強化していく。 研究活動の成果として、学会等での発表や論文集への掲載を目指していく。	32	3	教員の研究活動は保障されている。昨年度に引き続き、他校の教員と専門領域ごとに授業研究をすすめている。この東海北陸グループの授業研究については、各グループにファシリテーターとして教育主事が入っているなど、研究活動の助言・検討する体制がある。	
		(171)教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている			4		
		(172)研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地がある			3		
		(173)教員は専門領域の研究活動に取り組んでいる			3		
		(174)教員の半数以上は年1回以上の研究発表を行っている			3		
		(175)教員は看護・教育関係の学会に所属している			3		
	3) 研究成果の発表	(177)教員の半数以上は研究成果を過去2年以内に公表している(学会、投稿)			3	研究結果を論文、学会等で発表できたが、全員ではない。研究助成金を活用し、研究活動に取り組むことが課題である。学校として紀要は発行していないため、研究成果は、各自投稿を行うよう努力していく必要がある。	
		(178)学校は研究成果を年報、紀要や論文集などで発刊している			3		
	4) 研修活動への積極的参加と教員の活動	(179)教員は計画的・自主的に研修に参加している	教員の専門性を重視した実習配置をしていく。専門性を追求できる研修への参加や東海北陸グループでの活動を3~4回/年を予定していく。 教員は東海北陸グループが主催する実習指導者講習会の講師等の役割を果たしていく。	教員は、研究助成金を活用し、自己研鑽に努めている。教員の退職や病気休暇により、専門領域ではない実習を担当することもあるが、実習指導者と連携を図りながら効果的な実習となるよう努めている。	4	教員は講義や実習にいかせるよう、研究助成金を活用し、自己研鑽に努めている。教員の病気休暇により、専門領域ではない実習を担当することもあるが、実習指導者と連携を図りながら効果的な実習となるよう努めている。 今年度東海北陸グループ主催の実習指導者講習会の講師や愛知県主催の教員養成講習会の講師としての役割を果たしている。	
		(180)教員は、専門領域の臨地実習、研修を実施している			3		
(181)教員が研修に参加できるようシステム作りをしている		4					
(182)教員は対外的に講師としての役割を果たし、活動している		4					
11 学校評価	1) 自己点検・評価体制	(183)自己点検・評価のシステムが作られている	自己点検自己評価は、ワーキンググループにより行っている。よりよい学校運営のために、今年度も引き続き活動を行っていく必要がある。評価にあたっては中間評価、最終評価を行い、今後の課題も明確にしている。課題を次の年度でクリアできるよう教員が意識し実施できるようにしていく必要がある。	ワーキンググループを作り、グループ毎で教員が話し合い、中間評価を行った。それを基に、今年度の課題を見だし、今後に活かしている。	4	ワーキンググループを作り、グループ毎で教員が話し合い、課題に取り組み活動を行っている。中間・最終評価を行い、データで整理できている。それを来年度に活かすことが課題である。	3.9
		(184)自己点検・評価に必要な基礎データ等の整備がなされている			4		
		(185)自己点検・評価を定期的実施している			4		
		(186)自己点検・評価の結果を公表している			4		
		(187)評価を次年度に活かし改善している			3		
		(188)外部評価者の規準が明確である。			4		
		(189)自己点検・自己評価の活動は教職員に明確に理解されている。			4		